

平成24年12月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成24年7月31日

上場取引所 大

上場会社名 株式会社トライアイズ
 コード番号 4840 URL <http://www.triis.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役経営企画部長
 四半期報告書提出予定日 平成24年8月14日
 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(氏名) 池田 均
 (氏名) 赤根 克洋

TEL 03-3221-0211

(百万円未満切捨て)

1. 平成24年12月期第2四半期の連結業績(平成24年1月1日～平成24年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
24年12月期第2四半期	2,807	△15.7	87	40.3	104	17.1	41	△63.6
23年12月期第2四半期	3,329	△34.5	62	—	89	—	113	—

(注) 包括利益 24年12月期第2四半期 43百万円 (△60.9%) 23年12月期第2四半期 112百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
24年12月期第2四半期	34.35	34.08
23年12月期第2四半期	92.88	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
24年12月期第2四半期	8,164	6,860	83.6	5,690.19
23年12月期	7,915	6,918	87.2	5,753.29

(参考) 自己資本 24年12月期第2四半期 6,829百万円 23年12月期 6,905百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
23年12月期	—	0.00	—	100.00	100.00
24年12月期	—	0.00	—	—	—
24年12月期(予想)	—	—	—	100.00	100.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成24年12月期の連結業績予想(平成24年1月1日～平成24年12月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	5,330	△11.0	150	—	150	407.2	80	208.2	66.65

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 無
新規 一社 （社名） 、 除外 一社 （社名）

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 ： 有

（注）詳細は、添付資料P. 4「2. サマリー情報（注記事項）」に関する事項（2）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 ： 無
- ② ①以外の会計方針の変更 ： 無
- ③ 会計上の見積りの変更 ： 無
- ④ 修正再表示 ： 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）

24年12月期2Q	1,340,000 株	23年12月期	1,340,000 株
-----------	-------------	---------	-------------

② 期末自己株式数

24年12月期2Q	139,824 株	23年12月期	139,725 株
-----------	-----------	---------	-----------

③ 期中平均株式数（四半期累計）

24年12月期2Q	1,200,230 株	23年12月期2Q	1,220,051 株
-----------	-------------	-----------	-------------

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の実績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	3
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	3
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
(4) 追加情報	4
3. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 継続企業の前提に関する注記	11
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	11
(6) セグメント情報等	11
(7) 重要な後発事象	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第2四半期連結累計期間における我が国経済は、緩やかに回復しております。シニア世代が牽引する個人消費が好調なうえ、東日本大震災からの復興需要も内需の下支えとなっており、国内景気の足取りは堅調と言えると思います。唯、欧州債務危機の影響から急激な円高が進行し、夏場に向けての電力不足という足枷が、堅調な内需へ影を落とす可能性は否定できず、さらには、中国経済の継続的な減速、米国経済の回復の陰り等、我が国を取り巻く環境は、引き続き油断のできない状況であると言えます。

このような経済環境の中、当社グループは、景気変動の影響を受けない企業グループとして、小さくとも知性を使って、その世界ではNo. 1 となり光る企業グループを目指すという目標に取り組んでおります。その実現に向け、既存事業ポートフォリオである建設コンサルタント及びファッションブランド事業について、それぞれが前期に続き黒字化を達成できるように「イノベーションによるコスト優位の確立」を全グループ会社で共有し、業績改善に全力を注いでまいりました。

これらの結果、当社グループの当第2四半期連結累計期間の売上高は2,807百万円（前年同期比15.7%減）となりました。販売費及び一般管理費は923百万円（前年同期比8.6%減）と更なる削減を実現した結果、営業利益は87百万円（前年同期比40.3%増）、経常利益は104百万円（前年同期比17.1%増）、税金等調整前四半期純利益は85百万円（前年同期比52.7%減）、四半期純利益は41百万円（前年同期比63.6%減）となりました。

当第2四半期連結累計期間におけるセグメント別の業績は以下のとおりです。

（建設コンサルタント事業）

建設関連事業を取り巻く環境は、東日本大震災後復興関連で政府建設投資が増加したことから、公共部門の堅調推移が見込まれます。ただし、国内需要は1992年度以降先細り傾向にあり、復興関連工事が一巡した後は厳しい状況になる可能性もあります。(株)クレアリアの属する建設コンサルタント業界においては緊急災害調査の業務に続いて、復興に向けた調査・解析・設計業務が前四半期から出件されるようになり、福島県では原発事故の影響で、出件が遅れているものの、宮城県に続き、岩手県でも複数の業務を同社で受注することが出来ました。同社としては引き続き東北復興関連に注力していき、その実績を他のエリアへ展開してまいります。また、検証ダムとして今後の事業化が注目されていたハッ場ダムの事業継続が決まり、当社の関わりが深いいくつかのダムも継続が決定し、今後の受注増を図ります。

さらに、国内需要の縮小への対処として始めた、韓国における公共インフラ事業での受注活動も引き続き積極的に行っており、同国における受注拡大は同社の経営目標の一つとして認識し、韓国案件チームの拡大を目指しております。

これらの結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は1,754百万円（前年同期比18.9%減）と減収となったものの、営業利益57百万円（前年同期比22.2%増）となりました。

（ファッションブランド事業）

ファッションブランド事業においては、個人消費はゆるやかに持ち直しているものの雇用や社会保障制度の先行き不安などによる、人々の心理の落ち込みや消費を抑制しようとする国民の態度は依然として根強く、いまだ先行きの不透明感が残っております。

そうした厳しい経営環境のなか、当社グループのファッションブランド事業については、徹底したコスト削減を実行しております。ファッションブランド事業子会社全体で前年同期比約11%のコスト削減を達成し、売上が減少してもその分をカバーし、セグメント全体では、前年同期以上の営業利益を確保しました。

東京ブラウス(株)については、実店舗網では売上減少が影響し少額ながら赤字となりましたが、いっぽうで当社が管理するCLATHASブランドのライセンス事業からのロイヤリティ収入で大きく収益改善することができました。今後も販売チャネルを実店舗網とEコマースに絞り、両チャネルからのお客様動向や売れ筋商品のトレンド情報を吸い上げ、個客経験の共創（一人ひとりの個客のニーズを捉える）を遂行しながら業績拡大を目指します。それとともに、店舗運営においては、スクラップアンドビルドの考え方から、採算店舗は販売強化、不採算店舗についてはクローズし、新たな店舗開設について検討しております。

また、Eコマース事業の(株)セレクトィブと連携し、本年6月よりクレイサスブランドのコスメティック商品の販売を開始しました。クレイサスのブランドマークであるカメラ（椿）の成分を配合した同ブランドならではの商品として好評です。CLATHASのライセンス事業については、当社が管理面の強化にあたっておりますが、引き続き実店舗網を管理する既存チームとの連携を強化し、これまで以上の収益の確保を目指してまいります。

濱野皮革工芸(株)につきましては、(株)セレクトィブによるオンラインショップでの売上が大幅拡大しているものの、販売チャネルのなかでも大きな割合を占めていたTVショッピング部門における不振が響き、前年同期比で大きな減収減益となりました。引き続き多角化した販売チャネルの見直し、より効率的な生産体制の確立、さらなる

コスト削減を推進し、企業体質改善に取り組んでまいります。また、これまで生産及び卸が同社のルーツとして根強く意識されていましたが、同社製品の魅力を一人一人のお客様に訴求できるような方策を実行していくことで営業面での強化に努める所存です。つまり、TVドラマやファッション誌等での露出を継続し「知る人ぞ知る」ブランドであった同社の知名度を向上させること、従来の商品群に比べてより高級路線の商品を投入しブランドとしての印象度を向上させることから、ブランド価値を向上させ、業績回復を目指してまいります。なお、台湾において当社グループの拓莉司国際有限公司の販売管理のもと、CLATHASおよびHAMANOの商品を取り扱うショップを開始しました。

これらの結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は1,052百万円（前年同期比9.7%減）と若干の減収となったものの、営業利益は20百万円（前年同期比308.8%増）と大幅な増益となりました。

（2）連結財政状態に関する定性的情報

① 資産、負債及び純資産の状況

当第2四半期連結会計期間末における資産合計は、前連結会計年度末に比べ249百万円増加し、8,164百万円となりました。これは主に、「現金及び預金」が629百万円増加し、「受取手形及び売掛金」が209百万円、流動資産の「その他」が141百万円減少したためであります。

当第2四半期連結会計期間末における負債合計は、前連結会計年度末に比べ307百万円増加し、1,304百万円となりました。これは主に、前受金308百万円の増加によるものであります。

当第2四半期連結会計期間末における純資産合計は、前連結会計年度末に比べ58百万円減少し、6,860百万円となりました。これは主に、配当金の支払に伴う資本剰余金120百万円の減少、四半期純利益計上に伴う利益剰余金41百万円の増加、新株予約権17百万円の増加によるものであります。

② キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、税金等調整前四半期純利益は85百万円となり、配当金の支払があったものの、売上債権の減少、前受金の増加等があったことにより現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末に比べ657百万円増加し、当第2四半期連結累計期間末においては2,329百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果得られた資金は781百万円（前年同期は473百万円の回収）となりました。主な資金の増加要因は、税金等調整前四半期純利益85百万円、売上債権の減少191百万円、未収入金の減少127百万円及び前受金の増加308百万円です。主な資金の減少要因は、たな卸資産の増加47百万円です。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果得られた資金は16百万円（前年同期は12百万円の回収）となりました。これは主に、定期預金の払い出しによるものです。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果使用した資金は144百万円（前年同期は247百万円の使用）となりました。これは主に配当金の支払いによるものです。

（3）連結業績予想に関する定性的情報

現時点において、平成24年2月15日に公表しました通期の連結業績予想に変更はありません。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

（1）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

（2）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益又は税引前当期純損失に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失に当該見積実効税率を乗じて計算しております。但し、見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、法定実効税率を使用しております。

（3）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

（4）追加情報

（会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準等の適用）

第1四半期連結会計期間の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」（企業会計基準第24号 平成21年12月4日）及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日）を適用しております。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成23年12月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成24年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,724,060	2,353,835
受取手形及び売掛金	460,853	251,614
有価証券	104,169	104,211
商品及び製品	243,717	305,024
仕掛品	705,936	693,598
原材料及び貯蔵品	53,047	54,824
その他	245,404	104,127
貸倒引当金	△11,000	△469
流動資産合計	3,526,190	3,866,768
固定資産		
有形固定資産		
土地	831,770	816,737
その他（純額）	281,814	274,262
有形固定資産合計	1,113,584	1,090,999
無形固定資産		
のれん	1,107,206	1,020,412
その他	64,163	64,400
無形固定資産合計	1,171,369	1,084,813
投資その他の資産		
投資有価証券	1,787,700	1,787,700
その他	339,302	366,801
貸倒引当金	△22,717	△32,093
投資その他の資産合計	2,104,285	2,122,408
固定資産合計	4,389,240	4,298,221
資産合計	7,915,430	8,164,989

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成23年12月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成24年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	159,728	200,458
未払法人税等	39,751	61,960
前受金	443,544	752,230
賞与引当金	6,100	36,140
返品調整引当金	4,931	4,999
受注損失引当金	37,093	22,589
その他	218,441	156,654
流動負債合計	909,589	1,235,034
固定負債		
資産除去債務	22,691	22,805
その他	64,769	47,075
固定負債合計	87,460	69,881
負債合計	997,050	1,304,916
純資産の部		
株主資本		
資本金	5,000,000	5,000,000
資本剰余金	4,504,919	2,222,513
利益剰余金	△2,332,124	△128,521
自己株式	△266,652	△266,816
株主資本合計	6,906,142	6,827,175
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	△612	2,059
その他の包括利益累計額合計	△612	2,059
新株予約権	12,850	30,838
純資産合計	6,918,379	6,860,073
負債純資産合計	7,915,430	8,164,989

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
(四半期連結損益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成23年1月1日 至 平成23年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成24年1月1日 至 平成24年6月30日)
売上高	3,329,444	2,807,341
売上原価	2,256,222	1,796,211
売上総利益	1,073,222	1,011,129
販売費及び一般管理費	1,010,720	923,441
営業利益	62,501	87,688
営業外収益		
受取利息	1,003	1,206
受取配当金	94	—
不動産賃貸収入	9,858	9,858
投資有価証券清算分配金	—	6,936
為替差益	12,669	3,306
その他	11,997	2,741
営業外収益合計	35,623	24,049
営業外費用		
支払利息	2,398	327
不動産賃貸原価	5,167	5,408
その他	977	1,106
営業外費用合計	8,543	6,842
経常利益	89,581	104,895
特別利益		
貸倒引当金戻入額	110,039	—
特別利益合計	110,039	—
特別損失		
固定資産除却損	17	1,738
減損損失	1,576	15,033
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	9,582	—
事業整理損	6,411	—
その他	541	2,222
特別損失合計	18,129	18,994
税金等調整前四半期純利益	181,492	85,901
法人税等	68,862	44,676
少数株主損益調整前四半期純利益	112,630	41,225
少数株主損失(△)	△683	—
四半期純利益	113,313	41,225

(四半期連結包括利益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成23年1月1日 至 平成23年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成24年1月1日 至 平成24年6月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	112,630	41,225
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	△406	2,672
その他の包括利益合計	△406	2,672
四半期包括利益	112,223	43,897
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	112,906	43,897
少数株主に係る四半期包括利益	△683	—

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成23年1月1日 至 平成23年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成24年1月1日 至 平成24年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	181,492	85,901
減価償却費	34,274	29,438
減損損失	1,576	15,033
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	9,582	—
のれん償却額	86,794	86,794
株式報酬費用	11,919	17,988
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△257,201	△9
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△22,326	30,040
受注損失引当金の増減額 (△は減少)	△39,923	△14,503
返品調整引当金の増減額 (△は減少)	△1,564	68
受取利息及び受取配当金	△1,097	△1,206
支払利息	2,398	327
投資有価証券清算分配金	—	△6,936
為替差損益 (△は益)	△11,196	359
固定資産除却損	17	1,738
売上債権の増減額 (△は増加)	△27,348	191,961
破産更生債権等の増減額 (△は増加)	257,501	300
たな卸資産の増減額 (△は増加)	223,799	△47,652
未収入金の増減額 (△は増加)	△79,936	127,879
仕入債務の増減額 (△は減少)	△31,753	34,327
前受金の増減額 (△は減少)	197,045	308,685
未払金の増減額 (△は減少)	△96,654	△21,544
その他	28,196	△31,178
小計	465,595	807,812
利息及び配当金の受取額	921	1,123
利息の支払額	△2,398	△327
法人税等の還付額	25,097	99
法人税等の支払額	△15,965	△27,129
営業活動によるキャッシュ・フロー	473,251	781,578
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△9,508	△12,879
無形固定資産の取得による支出	△3,385	△9,908
投資有価証券の清算による収入	—	6,936
定期預金の預入による支出	△100,000	△132,252
定期預金の払戻による収入	100,000	159,707
貸付けによる支出	—	△1,500
貸付金の回収による収入	3,846	4,985
その他	21,209	1,197
投資活動によるキャッシュ・フロー	12,162	16,286

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成23年1月1日 至 平成23年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成24年1月1日 至 平成24年6月30日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	△150,000	—
長期未払金の支払による支出	△9,500	△33,061
自己株式の処分による収入	25	—
自己株式の取得による支出	△86,100	△164
配当金の支払額	—	△108,619
リース債務の返済による支出	△2,406	△2,506
財務活動によるキャッシュ・フロー	△247,981	△144,351
現金及び現金同等物に係る換算差額	12,966	4,357
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	250,399	657,871
現金及び現金同等物の期首残高	1,927,378	1,671,620
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,177,778	2,329,491

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

(6) セグメント情報等

I 前第2四半期連結累計期間（自平成23年1月1日 至平成23年6月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 2
	建設コンサル タント事業	ファッション ブランド事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	2,163,980	1,165,463	3,329,444	—	3,329,444
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	0	0	△0	—
計	2,163,980	1,165,464	3,329,444	△0	3,329,444
セグメント利益	46,995	5,025	52,021	10,480	62,501

(注) 1. セグメント利益の調整額10,480千円には、セグメント間取引消去14,640千円、各報告セグメントに配分していない全社収益及び全社費用の純額△4,159千円が含まれております。全社収益は、主に子会社からの経営指導料であり、全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整しております。

II 当第2四半期連結累計期間（自平成24年1月1日 至平成24年6月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 2
	建設コンサル タント事業	ファッション ブランド事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	1,754,367	1,052,973	2,807,341	—	2,807,341
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	1,754,367	1,052,973	3,807,341	—	2,807,341
セグメント利益	57,412	20,544	77,957	9,731	87,688

(注) 1. セグメント利益の調整額9,731千円には、セグメント間取引消去14,640千円、各報告セグメントに配分していない全社収益及び全社費用の純額△4,908千円が含まれております。全社収益は、主に子会社からの経営指導料であり、全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

当第2四半期連結累計期間において「建設コンサルタント事業」で減損損失15,033千円を計上しております。

(7) 重要な後発事象

該当事項はありません。